

宮城県内における*E.albertii*の侵淫状況調査

研究期間：令和4年度～令和5年度

宮城県保健環境センター 微生物部

研究の背景

- *E.albertii*は2003年に報告された新しい細菌
- 集団食中毒の原因菌となる
- 症状は下痢・腹痛・発熱など
- 病原性や感染源となる食品の種類、環境中の分布など不明な点が多い



宮城県の現状

- *E.albertii*を原因とする食中毒事例は、県内ではこれまで未発生、隣県では何度か発生
- *E.albertii*の県内流通食品や環境中等の分布が不明
- *E.albertii*を迅速に検出する検査体制の検討が不十分



研究の目的

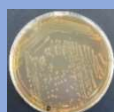


- 宮城県内に流通する食品・環境中における侵淫状況の調査
- 分離した*E.albertii*について、詳細な検査・解析を行う
- 食中毒事例発生時に迅速に対応するための検査体制の構築



食中毒予防策に
役立てる新たな
知見を収集

食中毒事例の
早期解決



研究の内容



1. 対象： 食品収去検査で収去された宮城県内流通食品
下水処理場で採取された下水流入水
海水や海泥等の環境検体の調査
2. 方法： 検体からの遺伝子検出と菌分離、
分離した*E.albertii*の詳細な検査・解析
収集した菌株の比較等

